

06

サイトレポート

1 大津事業場

排ガス洗浄設備

ガラス溶融炉の燃焼排ガスは電気集塵設備により集塵され、更に排ガス洗浄設備にて処理をしています。排ガス洗浄設備ブロワのインペラ部をチタン化することで腐食による設備の整備や故障のリスクが減少し、安定した排ガス処理を実現しました。

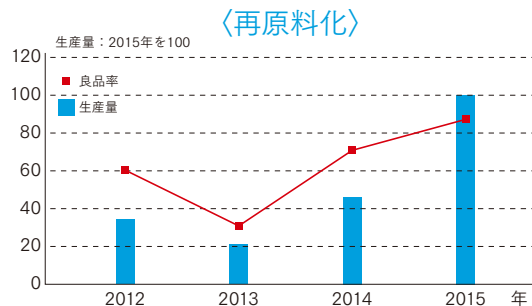
雨水回収の強化

近年の異常気象等の影響により、ゲリラ豪雨などが多く発生している中で当事業場において、水処理施設の遊休設備を利用して雨水回収の強化を図りました。今後も、更に雨水回収強化に努め、処理水を有効利用して、水の削減に繋がっていきます。

2 高月事業場

窯排ガス集塵ダストの再原料化

湿式排ガス処理設備から出る洗浄液のガラス原料としての再利用化を進めてきました。量産技術が飛躍的に改善し、生産量、良品率ともに改善できました。その結果、資源の有効利用と共に廃棄物の大幅な削減ができました。



3 能登川事業場

窯排ガス集塵ダストの再原料化

当事業場では2011年から、排ガス中から回収した回収原料の品質改善を行う事により約12,000トンの資源を再生し廃棄物の削減を行ってきました。2015年度は年間1,800トンの回収原料を再利用することができました。

4 精密ガラス加工センター

環境負荷低減

環境負荷低減のため、洗剤使用量の削減に取り組みました。昨年に続き、当センターでの生産は好調であり、事業規模が大きく拡大していくなか、2015年度の洗剤使用量は、前年度比12%削減することができました。

環境予防処置

毎年、近隣地域への汚染や騒音・振動に関わる潜在的原因を検出・分析・除去するため、環境予防処置会議を開催して必要な処置を決定しています。

2015年度は、地下浸透防止対策として老朽化した洗剤と混酸のクッションタンクの更新と、クーリングタワー戻りの放流配管の嵩上げ等を行いました。



全社トピックス

フロン排出抑制法

2015年4月に施行された「フロン排出抑制法」に準じて、当社でも全社を対象にフロン類使用機器の点検・検査を実施しました。年間の漏えい量は全社合計で1,000トン未満(二酸化炭素換算)と、国への報告が必要ないレベルでした。

今後も適切に点検・検査を実施し、漏えいの防止に努めていきます。

